

blood

Mr. Mathew Sawyer-Long (USA)

マットさんの今回のテーマは血。命を維持する不思議な力を持つ極めて重要なもので他人に与えることもできるが、一方でこれほど怖がられるものは非常に少ない。そんな血液について昔から世界の人々がどう感じ、考えてきたか。その歴史、文化、神秘について身振り手振りを交えてクリアな発音で語っていただきました。以下は概略です。

血のイメージ

マットさんが血液をテーマにした理由は「怖さもあるけれど魅惑的で、好奇心をそそる興味深いものだ」と思ったから。

路上に血が流れていたら、あなたは感じるか。驚きや恐怖の強い反応を示す。血のイメージは命、病気、力、危険、家族、希望、あるいはタブー、などだろうか。



テレビや映画、広告などで血を表現する場合、厳しいルールを持つ国がある。ドイツでは法律で、血を赤で表現せず、青か緑か黒で表す。多くの国に似たルールがあり、包帯のCMでも赤い血を見せない、（世界的に人気だった）日本のアニメ「ドラゴンボールZ」では血を汗のように表現した国もある。

多くの暴力的シーンのある映画を作った米国監督の中には「見る人の気分が悪くならないように」と血を黒と白で表現した。

一方で、ハリウッドでは本物の血に似せた「blood pack」を子供の遊びのために売っている。子供たちが吸血鬼・ヴァンパイアの白い衣装にこの fake blood を塗って遊んだりするため結構、おもしろらしい。

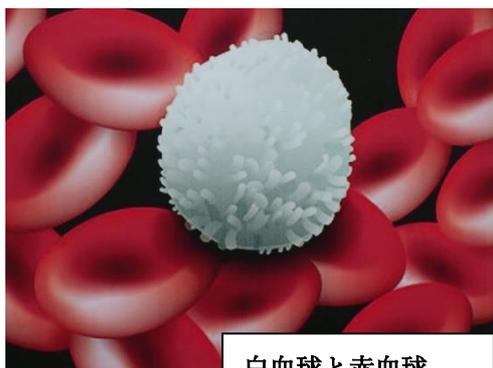
血にまつわる話

エイリアンの血は紫、緑、黄色で表現される。クモの血は黄緑色だ。

クリストファー・リーが演じた吸血鬼ドラキュラは、永遠の若さを得るため人の血を飲む。血は生命の根源とみられ、血を栄養源として生き続けるヴァンパイ

ヤー（吸血鬼）に似た昔話や伝説は世界中にあり、映画などでブームになったこともある。

日本では、河童は水の中へ人や動物を引っ張り込んで血を飲むと言われる。但し、日本の妖怪・ろくろ首は血ではなく命を飲み込むとされる。アフリカ、メキシコ、インド、中国、タイでも似た話がある。



白血球と赤血球

ここで、出席者から「(髪結だった) 茨木童子も客の顔をカミソリでわざと切り、出血した血を舐めるのが好きだったという」という伝説を紹介しました。昔の中国では水銀を飲んだら長生きできると考えられ、王様が飲み続けていたら死んでしまったという話もある。

古代ギリシャの神々は赤い血液を持たず、黄色と金色の“血”で永遠の命を生きたとされる。

血液

人間の血液量はどのくらいか？ 体重、性差で異なるが大体4ℓくらい。夏にはその半分の2ℓほどの水を飲む。血液は細胞部分の血球（赤血球、白血球、血小板）と液体部分の血漿からなっている。

赤血球（RBC）は骨髄で毎秒 200～300万個作られ、血球部分の中で圧倒的な量を占めている。酸素を取り込み、栄養分とともに全身に運び、炭酸ガスを肺から体外に出す。その寿命は 120 日くらいである。

白血球（WBC）は免疫システムで体内に侵入してきた敵と戦い生体を防御する。エイズウイルスは最近、コントロールされつつある。以前の患者は大量の薬を飲まなければならなかったが、今はほんのわずかですんでいる。

血小板は血が流れ過ぎないように凝固させて血を止める働きをする。血友病というのは血液凝固因子の欠損などで血が固まりにくくなり男性に発現する。



血漿

血漿（プラズマ）は血液の液体状成分で血液全体の半分以上を超える。その 90%が水分だが多くの蛋白質、脂質、糖質、ミネラルなどを含んでいる。

アフガニスタンでの戦闘で米兵が射たれたとき、この血漿を与えて命を救った。

血小板や血漿はガンややけどに効果があるとの報告があり、米国ではこの二つを分離して利用する治療が行われているが、必ずしも妥当性のあるものとは

思えない、という。

献血

日本では献血者の健康を考慮して、献血量に年齢制限と男女による定めがあり、年間、男子は 1.2ℓ 以内、女子は同 0.8ℓ などとなっており、血小板や血漿の成分献血も別途、基準が定められている。米国の基準は過去、それほど厳しくなかったため、米国から輸入した血液により種々の感染症を起こしたことがあった。

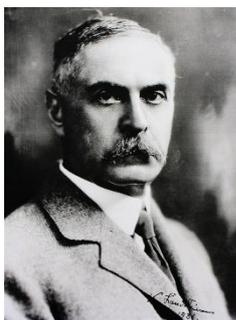
輸血をする場合は、その管理・検査をしっかりとやらないと、汚染された血液でエイズや狂牛病など様々な病気を移してしまう恐れがある。お金のために売血する人もいて、その危険は大きい。今ではかなり改善されている国もあるが、いくつかの国ではそこで 1 ヶ月以上滞在していたことを理由に献血は「no, thank you」と断られるケースがある。

第一次世界大戦のころ、負傷した兵士が収容されるテントは dying tent

と呼ばれていたが、献血によって救われるケースが増えた。戦時には献血が行われ、どの人の血液を提供してもらったかが追跡できたので、戦後になって献血を受けた兵士が提供者の若い女性に出会い、二人の間にロマンスが生まれた例があった。

若い人から血液の提供を受けると若さを維持できると考え、血液交換するシステムのある国や血液銀行や献血制度が確立していないため、家族や友人からしか血液提供を受けられない国もある。

血液型



日本人には血液型に興味を示す人が外国と比べかなり多いようだ。日本では A 型が一番多く、次いで O 型。アメリカ人では O 型、次が A 型である。アイヌ人では 80% が AB 型で O 型はゼロに近いという。

ABO の血液型が見つかったのはわずか 120 年ほど前のことで歴史は浅い。ドイツの Karl Landsteiner 写真左が 1900 年に最初に報告した。しかし、血液型で性格などがわかるかどうかは証明されておらず、否定する学者が多い。米国では大半の国民が自分の血液型を知らない。

最近では人工血液と言われる代替血液の研究や応用も行われつつある。

以上